

公開用

情報セキュリティ啓発キャラバン  
インターネット安全教室  
実施報告書

2004年2月

特定非営利活動法人  
日本ネットワークセキュリティ協会

## 1. 概要

誰でも手軽にインターネットに接続できるようになった今日、ウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきている。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、情報犯罪を防ぐことはできない。こうした状況をふまえ、家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればよいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を開催した。この「インターネット安全教室」は、全国11カ所の自治体・学校法人・団体・商工会議所にご協力いただき、その他、警察庁、各地県警、放送局・新聞社・教育機関等の後援を得て、2003年10月～11月にかけて開催した。

期間 2003年10月～11月  
 開催地 全国11カ所  
 主催 経済産業省  
 NPO日本ネットワークセキュリティ協会  
 後援 警察庁、その他

### 共催ならびに実施場所

日程	県名	共催地	開催場所
10月8日(水)	奈良県	なら情報セキュリティ研究会	帝塚山大学
10月23日(木)	福井県	福井県高度情報化推進協議会	福井県中小企業産業大学校
10月25日(土)	岡山県	岡山市情報政策課	岡山市職員研修所
10月27日(月)	徳島県	徳島県	徳島県立工業技術センター
11月1日(土)	神奈川県	学校法人岩崎学園	岩崎学園校舎
11月7日(金)	福岡県	学校法人麻生塾	麻生塾福岡校
11月13日(木)	沖縄県	浦添市	浦添市民会館
11月15日(土)	大分県	財団法人ハイパ-ネットワーク社会研究所	大分県立芸術文化短期大学
11月18日(火)	大阪府	北大阪商工会議所	北大阪商工会議所
11月22日(土)	北海道	北海道情報大学	北海道情報大学
11月29日(土)	新潟県	にいがた産業創造機構 NPO新潟情報セキュリティ協会	にいがた産業創造機構

## 2. 実施内容

プログラムは2時間構成で、前半は今回のために新たに制作した映像CD-ROM「インターネット安全教室」(約20分)の上映とそれに関する講師解説、後半は県警の方の解説「インターネット犯罪にあわないために」と実機4台を使った体験学習、質疑応答であった。参加者全員に、今回上映したCD-ROM(解説冊子付き)と、ノベルティとして紙製ボールペンとステッカー、紙扇子が渡された。



### CD-ROM 映像 (約20分)

CD-ROM 映像では、下記の6つのテーマに分けて作成した。できるだけ今年の事象も取り入れるよう配慮し、メールについてはウイルス感染メールだけでなく今問題になっている債権回収督促メールについても触れ、その他、無線LANを使用している際の傍受やインターネットショッピング・オークションを楽しむ場合の注意点などもわかりやすく映像で解説している。

1. 危険なメールとホームページ
2. 個人情報の漏えい
3. のびよる詐欺行為
4. 掲示板、チャットのマナー
5. 侵入されるパソコン
6. ホームページ作成の落とし穴

### 講師解説 (約30分)

CD-ROMの内容に基づいて、JNSA講師による、より詳しい解説を行なう。



### 県警解説 (約15分~20分)

各地の県警担当者または警察庁担当者による、「インターネット犯罪にあわないために」というテーマで解説を行なう。

体験学習（約 20 分）

ウイルスメールへの感染を実際に模擬体験し、ウイルスを映像として画面で見せる。（ただし、現在のウイルスやワームは目で見てそれとわかるものが少ないため、ほとんどがかなり前のものである）その他、キーロガーを利用した、入力パスワードの漏洩の体験、メーラーやブラウザでのセキュリティ設定の方法などを実機を使って解説。

質疑応答（約 5～10 分）

会場から質疑応答を募り、JNSA 講師・県警担当者らが回答する。

### 3. 開催内容の詳細

インターネット安全教室開催報告書		
奈良県	日 時	2003年10月8日 13:00～15:00
	会 場	帝塚山大学：奈良市帝塚山7・1・1
	定 員	200名（スクール形式）
	共 催 者	なら情報セキュリティ研究会
	後 援	警察庁、帝塚山大学、奈良県、奈良県中小企業支援センター、奈良新聞
	講 師	下村 正洋氏（JNSA 事務局長）
奈良県	<b>参加者数</b> 173名（一般）、総勢参加者（来賓、県警含む）183名	
	<b>来場者の特徴</b> 事前参加申し込み者の平均年齢が60歳、最高年齢80歳の方がいるということで、かなり初心者向けの対応を考えていたが、ほとんどの方がメールで申込をされているようにレベルはそれほど低いわけではなかったようだ。むしろ、大変熱心な様子でメモをとりながら聞いていた。アンケートの結果をみても、むしろ内容が簡単という声もあった。最高齢の80歳の方に体験学習に出いていただいた。	
	<b>会場風景</b> 	
福井県	日 時	2003年10月23日 13:30～15:30
	会 場	財団法人 福井県中小企業産業大学校：福井市下六条町 16-15
	定 員	200名（シアター形式）
	共 催 者	福井県高度情報化推進協議会
	後 援	警察庁、福井商工会議所
	講 師	井上 陽一 氏（JNSA 西日本支部長）
福井県	<b>参加者数</b> 151名（一般）、総勢参加者（来賓、県警含む）160名	
	<b>来場者の特徴</b> 年代的には40代～60代が大半であった。会場が午前中使用できなかったため、機材確認の時間を充分とることができなかつたり、PCトラブルが続出したが、特に大きな問題には至らなかつた。同じ敷地の展示場でふくいテクノフェアを行なっていることもあり、当日申込者を多く期待していた。予想通り全会場中で当日参加者数は26名と一番多かつたようだ。	

インターネット安全教室開催報告書		
岡山県	日 時	2003年10月25日 13:30～15:30
	会 場	岡山市職員研修所（ほっとプラザ大供）：岡山市大供 2-3-16
	定 員	100名（スクール形式）
	共 催 者	岡山市情報政策部情報政策課
	後 援	警察庁
	講 師	渡部 章氏（JNSA 不正プログラム調査 WG リーダー）
岡山県	<b>参加者数</b> 75名（一般），総勢参加者（来賓、県警含む）86名	
	<b>来場者の特徴</b> 奈良同様、年配の方が多かったが、電子町内会を運営されている方々ということで、比較的レベルは高かったようだ。ウイルスの被害にあったことがある方が1/3程度とあり、質疑応答でもウイルスやワクチンに関する質問が多かった。アンケート集計では、役に立たない、つまらないと答えた人は1人もおらず、講師の解説・体験学習は殆どの人が役に立ったという回答であった。	
	<b>会場風景</b> 	
徳島県	日 時	2003年10月27日 13:30～15:30
	会 場	徳島工業技術センター：徳島市雑賀町西開 11-2
	定 員	150名（シアター形式）
	共 催 者	徳島県
	後 援	警察庁、徳島県警察本部、徳島新聞社、四国放送、財団法人とくしま産業振興機構、社団法人徳島情報産業協会、徳島県インターネット普及連絡協議会
	講 師	井上 陽一氏（JNSA 理事・西日本支部長）
徳島県	<b>参加者数</b> 101名（一般），総勢参加者（来賓、県警含む）113名	
	<b>プレス</b> テレビ鳴門、中央テレビネット、四国放送	
	<b>来場者の特徴</b> 平日であったが、20代から60代まで平均して同数程度の参加者であった。スペース的に机が置けなかったため机を外してシアター形式でイスを並べ、できるだけ参加者数を多くできるように配慮した。地元のテレビ局のカメラ取材やインタビューも入り、大きな反響を呼ぶことができた。 <b>会場風景</b> 	

インターネット安全教室開催報告書		
神奈川県	日 時	2003年11月1日 13:30～15:30
	会 場	学校法人岩崎学園 横浜西口2号館807教室 ：横浜市神奈川区鶴屋町2-17
	定 員	200名（シアター形式）
	共 催 者	学校法人岩崎学園
	後 援	警察庁
	講 師	山田 英史氏（JNSA 技術部会）
神奈川県	<b>参加者数</b>	92名（一般）、総勢参加者（来賓、県警含む）101名
	<b>来場者の特徴</b>	同日の午前に、開催会場である岩崎学園でセキュリティに関する公開講座が行なわれ、そちらに参加した方で引き続き午後にも参加される方もいた。参加者は神奈川だけでなく、都内、千葉からの参加者もあり、広く告知はされていたようであるが、他の地方に較べると首都圏ではセキュリティセミナーの開催が多いためか参加者は比較的少なかった。だが、土曜日の開催ということで、年輩者だけでなく若い層の参加も多く見られた。アンケートではプログラム全体を通して「役に立たなかった」という回答は1人もおらず、ほぼ全員に満足のいく内容であった。
	<b>会場風景</b>	
福岡県	日 時	2003年11月7日 10:00～12:00
	会 場	学校法人麻生塾 博多校 6号館：福岡市博多区博多駅南2-12-32
	定 員	150名（シアター形式）
	共 催 者	学校法人麻生塾
	後 援	警察庁
	講 師	大溝 裕則氏（JNSA セキュリティ監査WG リーダー）
福岡県	<b>参加者数</b>	18名（高校の先生）22名（企業の方）50名（学生） 総勢参加者（来賓、県警含む）100名
	<b>来場者の特徴</b>	平日であったが、20代から60代まで平均して同数程度の参加者であった。スペース的に机が置けなかったため机を外してシアター形式でいすを並べ、できるだけ参加者数を多くできるように配慮した。地元のテレビ局のカメラ取材やインタビューも入り、大きな反響を呼ぶことができた。
	<b>会場風景</b>	

インターネット安全教室開催報告書		
沖 縄 県	日 時	2003年11月13日 14:30～16:30
	会 場	浦添市民会館 大ホール：浦添市仲間 1-9-1
	定 員	1,000名（シアター形式）
	共 催 者	浦添市
	後 援	警察庁、沖縄県、沖縄県警察
	講 師	下村 正洋氏（JNSA 事務局長）
	<b>参加者数</b>	約700名（事前申込を行なっておらず、当日も名刺の無い方が多かったので概数）
<b>プレス</b>	NHK 沖縄	
<b>来場者の特徴</b>	<p>企業の方から一般市民、お年寄りまで幅広い方々に御参加いただいた。共催者の浦添市で那覇市、浦添市の各地にポスター、パンフレットを配布される等幅広い告知を行なっていたため予想以上に一般の方が参加していたようだ。ただ、前半で帰ってしまう人も多かったため、せっかく後半の体験学習を見てもらえなかったのはもったいなかった。アンケートでは、他の地域に較べてよくわからなかった、役に立たなかった、という意見が目立ち、かなり来場者のレベルにばらつきがあったように感じた。</p>	
	<b>会場風景</b>	
大 分 県	日 時	2003年11月15日 14:00～16:00
	会 場	大分県立芸術文化短期大学 大講義室：大分市上野丘東 1-11
	定 員	220名（スクール形式）
	共 催 者	財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所
	後 援	警察庁、大分県、大分県立文化短期大学、大分大学、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK大分放送局、大分県情報サービス
	講 師	下村 正洋氏（JNSA 事務局長）
	<b>参加者数</b>	174名（一般）、総勢参加者（来賓、県警含む）184名
<b>来場者の特徴</b>	<p>来場者の約半数は、大分芸術短期大学の公開講座の一環として参加された。公開講座の対象者には、インターネット初心者が多かったため、大変熱心な様子であった。参加者は年配の方と女性が多かったが、その他、短期大学の学生も20名程度参加していた。比較的年配の女性の来場者が多かったようだ。CD-ROMの上映の際には笑いを誘うなど、和やかな雰囲気での開催であった。</p>	
	<b>会場風景</b>	

インターネット安全教室開催報告書		
大 阪 府	日 時	2003年11月18日 14:00～16:00
	会 場	北大阪商工会議所 会議室：枚方市大垣内町2-12-27
	定 員	100名（シアター形式）
	共 催 者	北大阪商工会議所
	後 援	警察庁、枚方市、寝屋川市、交野市
	講 師	山田 英史氏（JNSA）
	<b>参加者数</b>	98名，総勢参加者（来賓、県警含む）108名
<b>来場者の特徴</b>	一般の方よりも、北大阪商工会議所から声をかけていただいた、企業の方、役所の方が多かった。定員に対し参加申し込みが多かったため、机を外しイスのみとしたが、後方の方はスクリーンが見えないという苦情もあったが、アンケートではほとんどの方が役に立ったという回答であった。	
<b>会場風景</b>		
北 海 道	日 時	2003年11月22日 10:00～12:00
	会 場	学校法人電子開発学園 北海道情報大学：江別市西野幌59-2
	定 員	150名（シアター形式）
	共 催 者	学校法人電子開発学園 北海道情報大学
	後 援	江別市 経済部
	講 師	下村 正洋氏（JNSA事務局）
	<b>参加者数</b>	213名，総勢参加者（来賓、県警含む）228名
<b>来場者の特徴</b>	2日前に新聞とテレビ（NHK）で告知され直前の問い合わせが増えたため、当日申込者が多数いると予想されていたが、当日の朝からあいにくの雪であったため、出足が心配された。が、当初100名程度集まるだろうという話だったので、200名集まったことは大成功と言えるだろう。	
<b>会場風景</b>		

<b>インターネット安全教室開催報告書</b>		
新潟県	日 時	2003年11月29日 13:30～15:30
	会 場	財団法人にいがた産業創造機構：新潟市万代島 5-1 万代島ビル11F
	定 員	120名（スクール形式）
	共 催 者	財団法人にいがた産業創造機構，NPO にいがた情報セキュリティ協会
	警 察 講 師	新潟県警察本部 ハイテク犯罪対策室長 小林 武彦氏
	<b>参加者数</b>	88名，総勢参加者（来賓、県警、共催者スタッフ含む）106名
<b>来場者の特徴</b>	土曜日の午後ということもあり、企業の方よりも一般の参加者の方が多かった。年齢層は、20代から高齢の方まで様々であった。県警資料は特に配布しなかったが、小林室長が作成した独自のプレゼンテーションは大変にわかりやすく好評であった。	
<b>会場風景</b>		

## 4. 来場者数について

以下に各開催地での来場者数に関する情報を一覧する。

日程	開催地	定員	事前登録数	来場数	当日申込数	出席者合計	出席率	出席数	来賓等	参加者総数	参加者
								事前登録			定員
10月8日	奈良	200	198	161	12	173	81.3%	87.4%	10	183	91.5%
10月22日	福井	200	158	125	26	151	79.1%	95.6%	9	160	80.0%
10月25日	岡山	100	83	72	3	75	86.7%	90.4%	11	86	86.0%
10月27日	徳島	150	128	88	13	101	68.7%	78.9%	12	113	75.3%
11月1日	横浜	200	93	75	17	92	80.7%	98.9%	9	101	50.5%
11月7日	福岡	150	83	81	9	90	97.6%	108.4%	10	100	66.7%
11月13日	沖縄	1000	事前受付無し	700		700				700	70.0%
11月15日	大分	220	190	154	20	174	81.1%	91.6%	10	184	83.6%
11月18日	大阪	100	121	77	21	98	63.6%	81.0%	10	108	108.0%
11月22日	北海道	300	207	188	25	213	90.8%	102.9%	15	228	76.0%
11月30日	新潟	120	125	84	4	88	67.2%	70.4%	18	106	88.3%
合計		2740	(1386)			1955	(71.4%)	(90.5%)		2069	75.5%

来賓等とは、来賓、県警の方々、共催者スタッフを含む

沖縄県は事前申込受付を行わず、また、当日も人数が多く名刺を持参しない参加者も多かったため、参加者数は概算である。

全体を通しての定員は2,740名だったが、実際の参加者は2,069名(来賓を含む)であった。平均で75.5%という動員数は、IT系の無料イベントとしてはかなり多いといえるだろう。更に事前登録者数+当日申込と当日出席者数の比率を見ると、事前登録を行わなかった沖縄を除き90.5%の歩留まりとなっている。100%を超える開催地場2箇所もあり、平均でも9割を超える入場者数の歩留まりは、驚異的といってよいだろう。このような初心者向けのイベントの効果と有用性が確認できたとともに、今後とも継続していくことの重要性を認識できたと言える。

経済産業省としても、引き続き全国規模での実施について、何らかの施策を行うことが期待される。実施方法などについての提言については後述する。

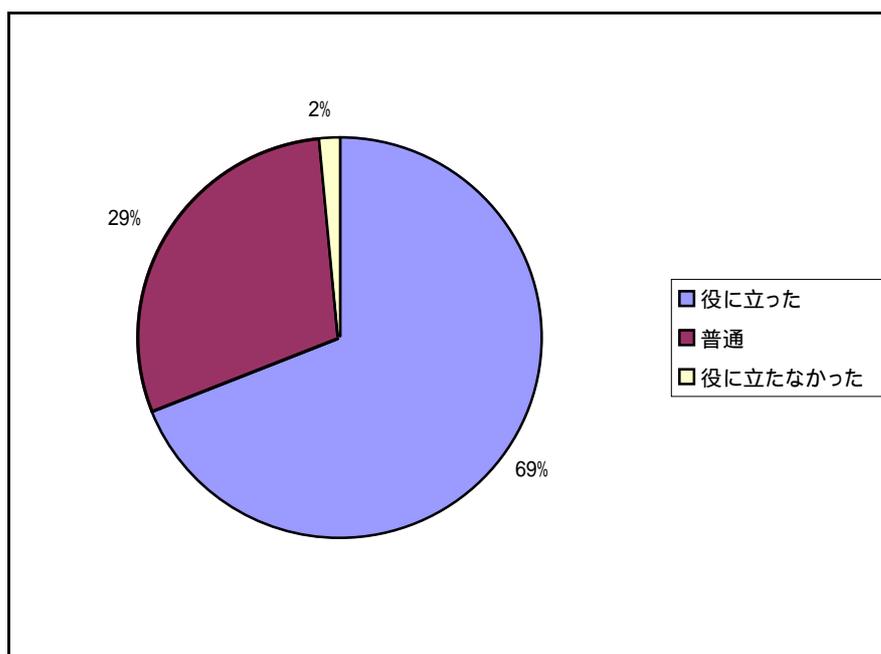
## 5. アンケート結果

次に各会場で取ったアンケート結果について述べる。

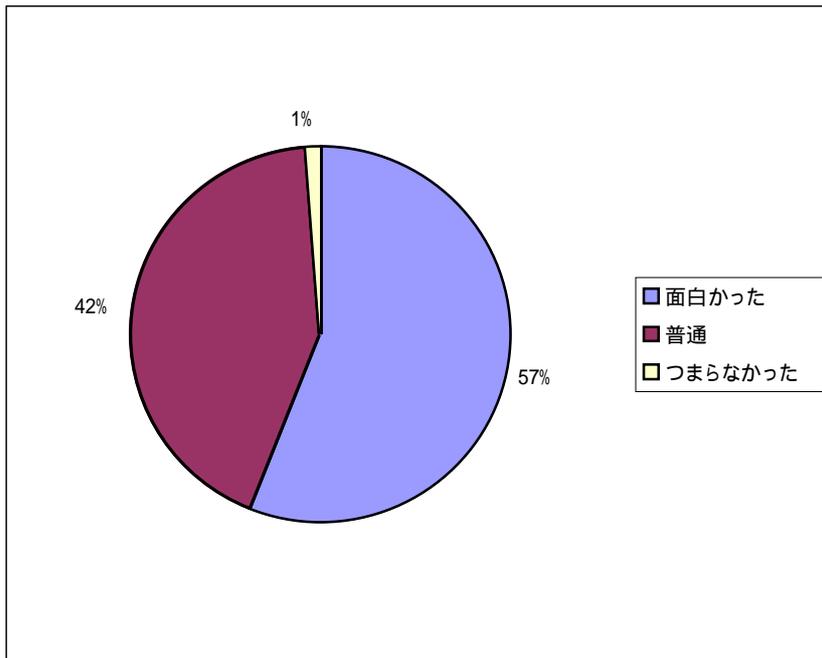
	回答数	今回のセミナーに参加していかがでしたか						本日の参加理由					
		役に立 った	普通	役に立 たな かった	面白 か った	普通	つま ら な か つ た	PC や 情 報 に 興 味 が あ る か ら	知 に わ れ て	人 誘 れ た か ら	ウ イ ル ス 被 害 に あ つ た か ら	必 要 性 を 感 じ た た め	その 他
奈良県	142	98	27	1	56	20	0	104	4	28	-	15	
福井県	121	49	45	3	25	30	2	95	9	9	-	8	
岡山県	63	39	13	0	21	10	0	52	3	12	-	5	
徳島県	70	35	23	1	23	19	0	53	2	16	-	9	
神奈川県	83	51	16	1	28	21	0	75	2	11	-	5	
福岡県	82	39	30	3	26	32	3	36	3	3	-	43	
沖縄県	266	173	57	4	70	59	2	218	19	32	-	22	
大分県	149	95	24	3	41	20	0	72	10	14	98	15	
大阪府	74	47	20	0	37	20	0	56	7	17	-	0	
北海道	156	92	43	1	40	44	1	95	25	14	82	10	
新潟県	78	31	23	2	23	20	2	47	8	7	48	6	
計	1284	749	321	19	390	295	10	903	92	163	228	138	

参加理由の必要性については、途中からアンケートに加えたため、沖縄以前は項目が無し。

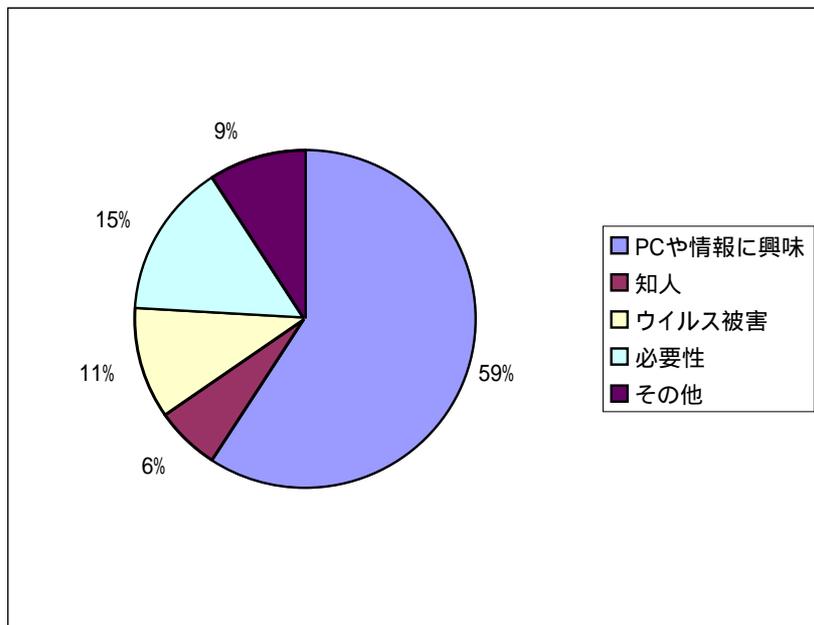
今回のセミナーに参加して役に立ったかどうか



### 今回のセミナーが面白かったかどうか

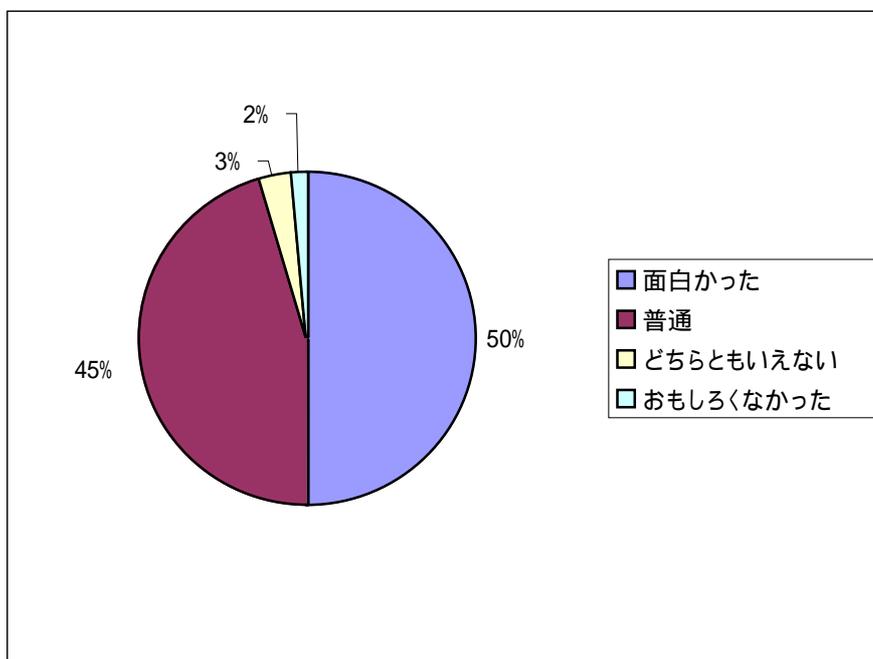


### 本日の参加理由

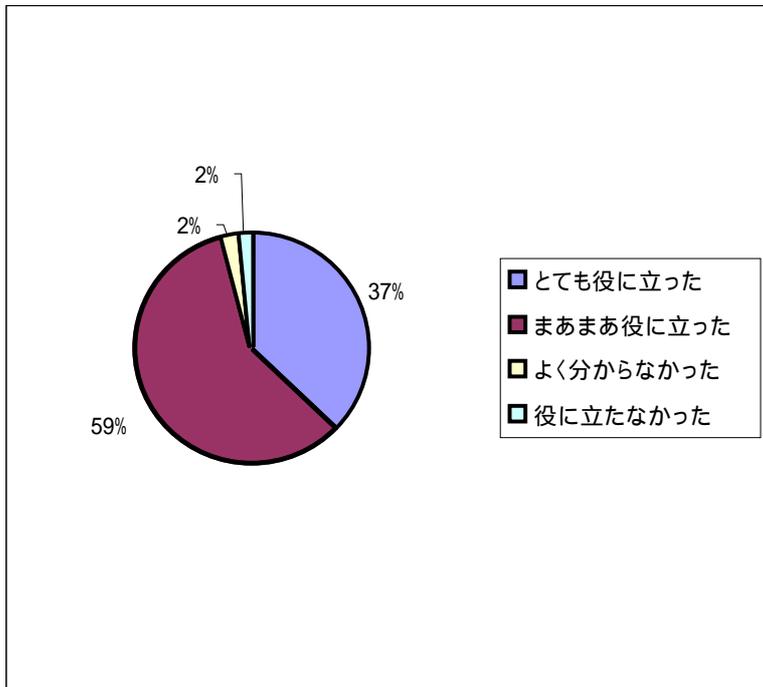


	CD-ROM 上映				講師解説				県警のお話			
	面白かった	普通	どちらともいえない	おもしろくなかった	とても役に立った	まあ役に立った	よく分からなかった	役に立たなかった	とても役に立った	まあ役に立った	よく分からなかった	役に立たなかった
奈良県	61	65	5	1	63	70	1	2	51	75	3	0
福井県	43	55	1	6	18	75	3	7	17	78	0	2
岡山県	31	24	1	0	27	28	1	0	12	36	3	1
徳島県	30	34	2	0	13	47	1	1	19	43	2	0
神奈川県	38	35	4	0	28	51	0	0	22	45	10	0
福岡県	25	44	6	7	25	48	5	4	30	43	4	5
沖縄県	151	100	4	3	102	144	6	3	109	126	6	4
大分県	79	57	1	1	77	57	6	1	46	78	9	3
大阪府	37	30	7	0	27	47	0	0	27	38	4	0
北海道	84	63	5	1	55	94	1	2	35	105	7	1
新潟県	29	47	2	0	17	52	6	3	56	22	0	0
計	608	554	38	19	452	713	30	23	424	689	48	16

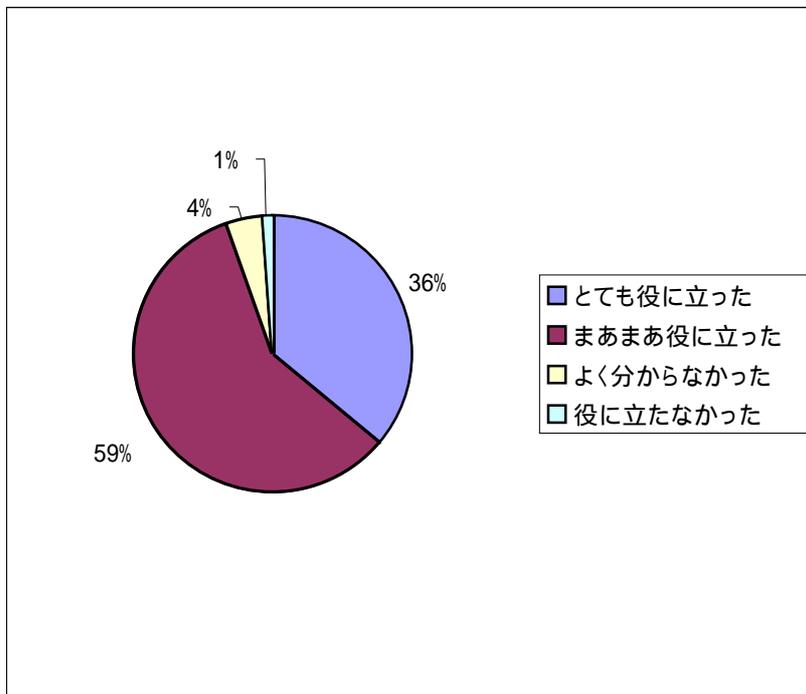
CD-ROM 上映について



### 講師解説について

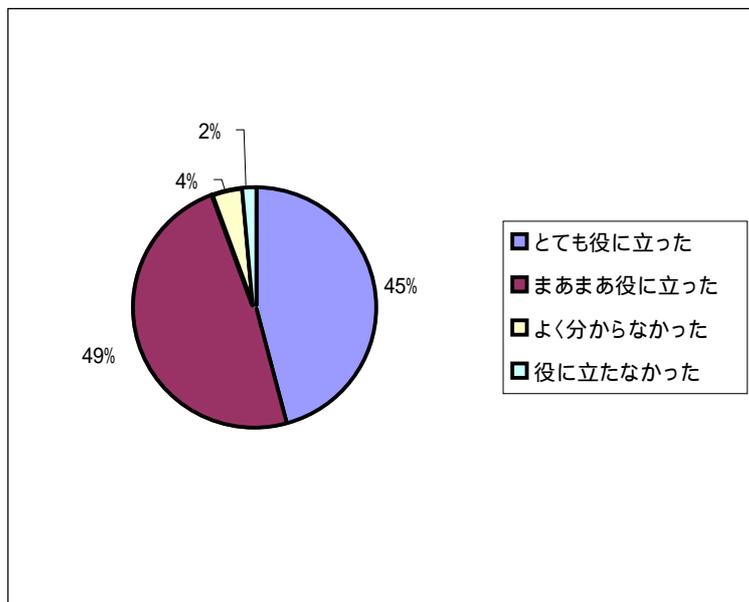


### 県警のお話し

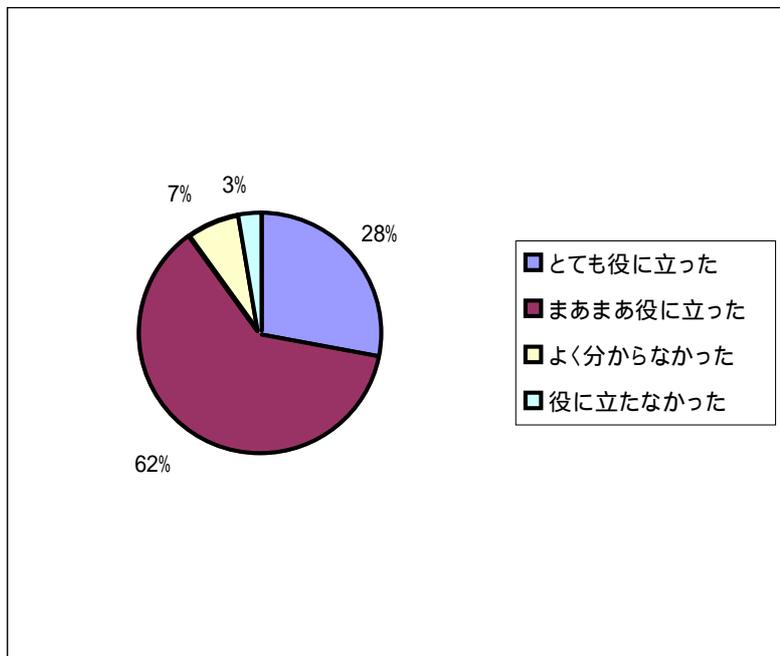


	体験学習				質疑応答				一番面白かったもの				
	とても役に立った	まあまあ役に立った	よく分からなかった	役に立たなかった	とても役に立った	まあまあ役に立った	よく分からなかった	役に立たなかった	CD-ROM	講師の解説	県警のお話	体験学習	質疑応答
奈良県	51	63	7	2	16	48	11	2	10	16	7	12	0
福井県	40	57	0	3	9	45	3	2	9	2	5	15	0
岡山県	25	28	1	1	15	22	0	0	4	10	1	10	0
徳島県	22	37	3	0	13	38	3	1	6	4	4	21	2
神奈川県	43	31	2	0	21	26	8	0	10	6	2	14	0
福岡県	23	44	6	8	14	43	7	6	15	1	15	9	1
沖縄県	104	106	6	5	39	79	9	4	21	26	11	33	4
大分県	78	40	11	0	36	6	1	1	15	20	0	21	0
大阪府	37	27	3	1	13	30	4	4	12	3	10	12	0
北海道	66	76	1	2	30	84	1	2	23	13	5	30	4
新潟県	27	45	2	1	6	43	5	1	2	3	48	2	2
計	516	554	42	23	212	464	52	23	127	104	108	179	13

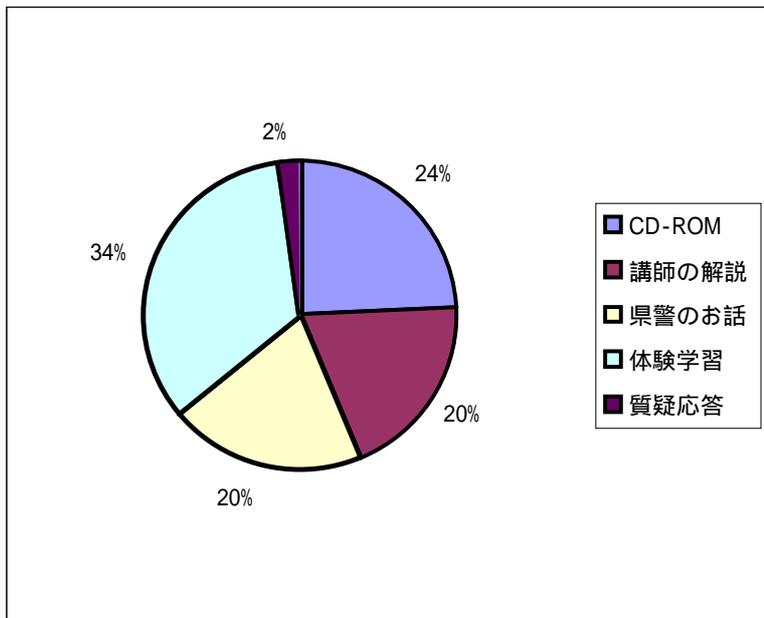
体験学習について



### 質疑応答について



### 一番おもしろかったもの



全体を通して、アンケートに回答していただいた大半の方が、今回のセミナーに満足したと言ってよいだろう。一番面白かったものという設問には、体験学習が回答数が一番多かった。一部とはいえ参加型の構成をとったことは、興味を持続させるためにも効果があったようである。

〔CD-ROM〕

CD-ROMの内容については、一部の人からは物足りないという意見もあったが、今回の趣旨である一般市民の啓発という目的から考えると、これ以上難易度を上げるとはあまり効果がないと思われる。全体としては、概ね、多くの方に好意的な意見をいただけており、家庭に帰って教えたい、職場で見せたい、分かり易くよくできている、参考になる、等の感想が多かったことから、当初目的としていた対象については、それなりの効果があったと思われる。

〔体験学習〕

体験学習には、多くの方から具体的でわかりやすい、参考になった、クッキー、ウイルス、キーロガーなどを実際に勉強できて良かった、という意見をいただいた。その他、体験学習用のPCをもっと増やして欲しい、時間を長くして行なって欲しい、等のコメントもあった。通常使っているブラウザやメールでも、その機能を熟知して利用している人は少ないようであり、また、ウイルスも実際に見る機会は大変少ないため、「ウイルスを見ることができて良かった」という意見も多かった。

〔講師解説・質疑応答〕

専門用語は使わないよう気を付けるよう講師にも依頼をしていたが、それでも専門用語が多い、用語が難しい、というコメントは毎回数件あった。特に質疑応答では、その場で即答しなければならないため、講師も思わず業界用語を使ってしまいがちであるという現実があったようである。これは、講師役の養成や依頼人の選定など、今後の課題として考えたい。

〔その他〕

個別のコメントとしては「時間が少ない」という意見がどの開催地でも見られた。この点については、決定的に時間が無く内容が不満であったということではなく、恐らく内容的には適当な分量であり、時間配分も妥当であったことの証左であろう。

その他、企業版もやってほしい、定期的開催してほしいというコメントも多かった。この点については、今後の課題で考察を進めたい。

## 6. 質疑応答の考察

質疑応答の質問と回答について、次のように分類して整理してみた。

- マイクロソフトに直接関係するもの
- ウイルスに関係するもの
- インターネット全般に関連するもの
- 電子商取引などに関係するもの

〔MS 関係〕

マイクロソフト関係は、当然とはいえ多かったが、ここではウイルスやインターネット関連の一般的なものは別に整理し、MS 特有の問題点を集めてある。

マイクロソフト製品を使わないのが解決方法ではないかといった、過激ではあるが確信的な質問もあり、もっと議論が必要であることが確認できた。

また、アプリケーションのちょっとした設定で避けられる問題もあり、このような点の知識の普及も課題となるだろう。

質問	回答
マイクロソフト製品（Internet Explore とアウトLOOK）を使わなければほとんどのセキュリティ問題は解消するのではないか。	ハッカーは多く使われている製品をターゲットとしていることも事実。個人で有償のソフトを選択することも一つの方法である。
マイクロソフト製品は、PL 法上リコール対象製品ではないか	正論であり、国際的にも議論されているようであるが、社会的影響もあり、まだ共有認識となっていない。
プレビューウィンドウは使わないようにという指摘があったが、実際には不便である。ワクチンソフトを入れていれば大丈夫ではないのか？	ワクチンを入れているから完全に大丈夫とは言えない。ウイルスは日々進化している。その中でどうやって身を守るかを考えなければならない。最終的には自分の知識と対応能力で選択する自己責任となろう。組織でルールを決めている場合にはそれに従うことになる。
IE でページ閲覧制限があったようだが、それは今でもあるのか。また有効なのか。	フィルタリングという技術であり、インターネット上でどのページへ行く行かないは個人の自由だが、子供などの閲覧をブロックするためには役に立つ機能である。今はそれ専用のソフトも出ている。だが、自分でどのページへ行く行かないを決めないとならない。
WindowsMe を使っているが、OS のアップデートはどうしたらよいのか？	会場で配布する CD-ROM は XP 専用だが、他の OS 用に案内のチラシを用意しているので、それを参考にして対処してほしい。
XP のアップデートが大変重たいので行わずにほっておいているが大丈夫か	確かに電話回線でのアップデートはつらい。是非今回配布する CD-ROM でアップデートしてほしい。

<p>マイクロソフトがパーソナルファイアウォールを防御策として推奨しているようだが、それは本当に必要なのでしょうか？</p>	<p>パーソナルファイアウォールを入れることによりパソコンが防御の機能を持つだけでなく、ウイルスに感染したとしてもそれを狙ってくる攻撃を跳ね返すことができる。家庭でルーターを使っている場合は、ルーターにはそういう機能もあるので、ルーターが無い場合や外でインターネットに繋ぐような場合に入れると、より安全にインターネットを利用することが出来る。</p>
--	---

〔ウイルス関連〕

ウイルス関係は、やはり質問の中で大きな割合を占めているが、ちょっとした内容に不安を感じたり心配していたりすることもあるようである。IPA やワクチンメーカーなどがいろいろな情報を出しているはずであるが、これでもまだ専門的過ぎるのかもしれない。

もっとも、現在の脆弱性などの対応が難しすぎるということが問題であるという意見もあるので、現在うまくいっていないことは、もっと根本的な問題なのかもしれない。このような一般の初心者に対する啓発活動とは別に、専門家として脆弱性のリコールや自動修正のための技術的なアプローチについて、もっと研究思考するべきなのかもしれない。

質問	回答
<p>ウィンドウズアップデートとワクチンのアップデートをやっている限りは大丈夫だというソフトメーカーからの回答を得ているが？</p>	<p>上記のような状況なので昨今はワクチンを入れているから安全だとは言えない</p>
<p>CATV でウイルス感染対策のサービスをやっていると聞いたのだが、最近、CATV でインターネットをやっている人がウイルスに感染したというのですね。で、CATV に問い合わせたところ、メールに関してはウイルス対策をしていますが、それ以外のホームページから感染したようなものはやっていませんというような回答だったのですが、どのようなものなのでしょうか？</p>	<p>その CATV のサービスがどのようなものか分からないので、なんともいえませんが、一般的にはウイルス感染対策のサービスをやっているという場合、ホームページからの感染に対する対策もやっているというケースが多いと思います。</p>
<p>ウイルス・ワームに感染して大量のメールを他人に送ってしまい、受け取った側のハードウェアが壊れてしまった場合、法的には賠償責任は発生するのか？</p>	<p>感染していることに気づかずに発生したものであれば原則として責任はないが、本人の知識などによって故意と判断される場合があるかもしれない。事故を未然に防ぐためにもアップデートなどの対策をしておきましょう。</p>

ワクチンを入れているのにウイルスが入ってしまった	ワクチンは6ヶ月くらい古かった。今は日々新しいウイルスがでているので、ワクチンやパターンファイルは最新にしておかないとならない。
ウイルスに感染しPCの調子が悪くなってしまったが、どうすれば復旧できるのか？	OSのアップデートやワクチンソフトによるウイルスの除去を行っても復旧しない場合は、リカバリCD-ROMなどで再インストールを行うしかない。
ウイルスに感染したのだけれどワクチンを入れないと直らないのか	ワクチンソフトを入れないと直らない。
インターネットのサイトでウイルスチェックをして駆除可能・不可能という表示が出たが、「不可能」に対してはどうすればよいのか	ケースバイケースだが、ひどい場合はウイルス対策ソフトが入らないウイルスもある。その場合は別のPCで別のサイトから駆除ソフトをダウンロードして入れないとないこともある。大事な点はデータのバックアップをとっておくことである。
ウイルスの定義ファイルを更新したら起動できなくなった	現状では即解らない、状況を聞いてみないと。
ウイルスはウイルスソフトでチェックできるが、キーロガーは何でチェックすればいいのか	スパイウェア（キーロガーもその一種）はアドウェアでチェックできる
プロバイダーで契約してウイルスチェックをしているのだが、それだけでは足りないのでしょうか？	プロバイダーを経由して送られるメールはチェックされるが、他の媒体（フロッピーやCD-ROM）などでもちこまれたものや、Webからダウンロードして取得したものでチェックしてくれないので、やはり個人のPCでのウイルスチェックは必要である。
ウイルスバスターを入れているがそれでもウイルスを検知したと言われた	そういうことは最近起きている。パターンファイルの更新をしていなかった、間に合わなかったような場合である。そう言う場合には削除できる場合には駆除し、ダメな場合には再インストールをしなければならぬ場合もある。
リカバリーをしてアップデートをしている最中に感染してしまった	ウイルスの感染速度が速くなってきているので、そういうことも増えてきている。直接外部からアクセスされないようにアップデートするか、ブロードバンドルーターなどを使うなどした方がよい。
ワクチンソフトさえちゃんと更新していれば大丈夫なの？	ワクチンソフトで何でもブロックできるわけではないので、OSの更新もあわせて行ってほしい。
メールはプロバイダにウイルスチェックを頼んでいけば安心なのか	プロバイダ経由のメールはチェックされるが、web経由のアプリケーションなどはチェックされないので、各PCでの自衛対策も必要である

<p>アウトルックはウイルスにかかりやすいので、フリーソフトのエドマックスに変える予定なのだが、ソフトを変えるとメールに関するウイルス対策は安心できるのか？</p>	<p>アウトルックのぜい弱性も確かにあるが、アウトルックは広く使われているのでそれを狙ったウイルスが多いのも確かである。アウトルックを狙ったウイルスに対しては、メーラーを変えることで対処できるが、それ以外の OS のぜい弱性を狙ったウイルスに対しては、メーラーを変えても防げないので注意が必要。</p>
<p>メーラーのセキュリティ設定を「高」にすると添付ファイルが削除されてしまう場合がある</p>	<p>最高にすると怪しいファイルは全て削除されてしまうので、設定を少し下げて、別にウイルスチェックソフトを入れるなど使い分けも必要である。</p>

〔インターネット一般〕

ウイルス以外のセキュリティ関係は、この項目にまとめてみたが、いろいろな疑問が出ていることがわかる。こんなことを聞いたけど、意味が良くわからない、という感じの質問が多く、やはり言葉が難しいとか、意味がわからないとかいった不満が根底にありそうである。

国の施策についてのコメントを質問という形で違憲された方もあったが、今までこのようなことを正式に言う機会はほとんど無かった。今回の安全教室も相互に意見を表明し議論する場を提供することはできなかったが、今後はこのような議論するための「場」がますます必要となるだろう。その際に、レベル毎に議論できるようにするなどの工夫が大切かもしれない。

質問	回答
<p>鍵マークがあると安全だというが、その鍵マークそのものが信頼できるかどうかは、どう判定するのか？</p>	<p>インターネットは顔が見えない世界なので、そのホームページが安全かどうかという場合の、ひとつの目安が鍵マークですとご紹介しました。しかし、これが絶対というものではありません。それを悪用するというケースもあるので、ワクチンとか不正対策をした上でやっていただきたい。</p>
<p>インターネットにつないでいるとウイルスの関係でものすごい Ping があるが、それは残しておいたほうがいいか、消してしまったほうがいいのか？</p>	<p>インターネットにつながっていると確認するために Ping があります。いわゆるセキュリティポリシーの中で、自分に必要なものは残しておく、そうでないものは消すということになると思います。不正アクセスに関するものであるという場合は、多少残しておいたほうがいいですが、あまり長い期間持っておいてもしょうがないでしょう。</p>

<p>Cookie の設定を「高」にした場合のデメリットを教えてください。</p>	<p>基本的に Cookie は不要。「高」でよい。デメリットとしては、cgi を使っているサイトでは動かなくなる場合がある（ショッピングサイトなど）ので、ショッピングする場合はレベルを下げ、それ以外のページで情報を読むだけなら必要はない。</p>
<p>Cookie が危険だと思い Cookie を受け付けないように設定したら、ショッピングサイトの表示がおかしくなりました。Cookie の設定を元に戻しても表示が直らないが、どうしたらよいか？</p>	<p>Cookie の設定を元にしても表示が直らないなら、サイト(サーバ)が想定している Cookie とブラウザが保持している Cookie の整合性がとれなくなったと考えられるので、ブラウザの保持している Cookie を一度削除してみる。IE などでは他のサイトの Cookie も削除されてしまうが、使用上やむをえない</p>
<p>キーロガーのようなソフトが個人の自宅の PC に仕込まれる可能性はあるのか、それが入っているかどうかを調べる手だてはあるのか</p>	<p>自宅の PC に入る可能性は少ない。ただ、ファイル共有をオンにしていたり無線 LAN を利用している場合はあり得るので注意が必要。 仕込まれているかどうかを確認するには専門的な知識が必要なため、十分な対策をした上でインターネットを利用した方がよい</p>
<p>新聞サイトの記事の URL をメーリングリストなどで貼りつけて流すことは著作権の侵害になるのか</p>	<p>記事そのものを貼りつけて良いという表示がある場合以外は、無断で貼りつけることはいけない。 メーリングリストで特定の対象者に送る場合は問題ないが、不特定多数の人へ配信するようなメーリングリストではあまり良くない。</p>
<p>ウイルス作成罪がいずれできるのかもしれないが、未失の故意（届いてしまったが、まあいいかと思っていたら人に移してしまうと）というのは犯罪になるのか？</p>	<p>ばらまく目的が無いと犯罪にはならないが、サーバーを公開している人が、目的もなく取っておいて人に迷惑をかけてしまうと犯罪になり得る</p>
<p>安全だと思っけていても危ないサイトがあるということだが、留意点を教えてください</p>	<p>Java というプログラムを使った見せかけゲームだがウイルスというものもある。これはウイルスチェックで検知できるが、定義ファイルが間に合わない場合もある。感染してしまうと後が大変なので、IE のセキュリティ設定で設定できるので、心配な場合はそこで「無効」や「警告」のチェックしておくのがよい。 ブラスターの場合は、ルーターの設定が役に立つので、敢えてルーターを通して余計なポートを閉じて繋ぐのが対策になる</p>

<p>メールが文字化けするのですが、ウイルスでしょうか？</p>	<p>日本語圏以外のところ（韓国、中国など）からのメールが文字化けして見える場合が多い。自分のマシンで表示できない文書は、SPAM といえるかもしれないが、一概にウイルスというわけではない。</p>
<p>外国からのスパムメールが多いが、警察で取り締まる等の議論は無いのでしょうか</p>	<p>メールを送るという行為は罪にはならない。個人的には、携帯メールならばパケット通信料がかかるが、e-メールの受信はたかがしれているので仕方がないと思っている。</p>
<p>ダウンロードの意味を教えてください</p>	<p>ホームページのサイトから、ソフトやプログラムを自分のパソコンに持ってくることをダウンロードといいます。</p>
<p>ダウンロードによって利用者の意図しない設定に変えられることも不正アクセス禁止法に該当するのでしょうか？（国際電話で設定を変えられるなど）</p>	<p>設定を変えるだけでは、不正アクセス禁止法に該当しない。設定が変更されたところに更に何らかのアクセスが行われた場合には該当する。</p>
<p>クッキーを高にした場合見られないページがあるということだが、それでも「高」にするのですか？</p>	<p>見られないページもあるので、状況によって切り替えて使ってください</p>
<p>ブロードバンドルータを使えと言っていたが、入っていればそれでいいのか？</p>	<p>ブロードバンドルータを使っているということは、設定が正しければインターネットと分離されているので、外からのアクセスが直接届かないようになっている。もちろん何も対策をしないでメールやブラウザをアクセスすると危険なのに変わりはないので、OS の更新(WindowsUpdate)やワクチンソフトの更新をするための最低限の環境と思って、更新を欠かさずに使ってほしい。</p>
<p>携帯のセキュリティソフトはあるのでしょうか</p>	<p>携帯では被害がほとんど発生していないので現状は無いと思う。今後もし増えてくるようならば出てくるかもしれない</p>
<p>国の政策は遅れているのではないか。縦割り行政ではなく、国が一丸となって対策を考えることが必要ではないか</p>	<p>遅れている面も確かにあるが、サイバー犯罪条約が日本でもすすめられているように情勢にあった体勢にはなっている。また、最近は各行政が一緒になって考えるようになってきている。</p>
<p>パソコンを買ったときに申込と同時にセキュリティチェックに加入したがそれで充分なのか？</p>	<p>それは多分メールだけなので、Web 経由や人からもらったファイルに対してはウイルスチェックは働かないので、その部分については各自で対策が必要である。</p>

<p>メーラーのセキュリティにチェックをすると、人から届いた添付ファイルのワードやエクセルが届かなくなってしまう。</p>	<p>添付ファイルを受け取らない設定にすれば添付ファイルに関する問題はなくなるが、それでは希望する動作にならない。添付ファイルを受け取りたいければ、そのような設定にしなければならないが、その時はウイルス対策ソフトで添付ファイルのチェックを行えばよい。いずれにしても完全ではないので、使い分けについては詳しい人に聞くといいだろう。</p>
<p>警察庁のパンフレット「受信メールでウイルスを関知しました」というメッセージがいつどういったときに出るのか？</p>	<p>最近のウイルス対策ソフトはダイアログが出ることが多いだろう。質問の「いつどういったとき」は、ウイルスメールを受信して対策ソフトが検知すれば、その旨のダイアログが表示されるはずである。</p>
<p>スパイウェアとはどういったものなのか、また、ウイルス対策ソフトを入れていれば、スパイウェア対策ソフトは必要ないのだろうか</p>	<p>キーロガーなどをスパイウェアソフトというが、キーロガーはデバッグツールとしても使われ、企業でも導入されている場合もある。Slammerのようなファイルに書き込まないようなタイプのワーム/スパイウェアは、ウイルス対策ソフトに引っかからないので、注意が必要である。自分のコピーを送り込む度に対策ソフトで検知しているパターンを変更するようなスパイウェアも考えられるので、スパイウェア用の対策ソフトを使ってみるなどの対応も考えた方がよいだろう。</p>
<p>企業や個人でセキュリティにかかる費用は膨大である。国や県として、講習会をやるだけではなく、セキュリティのプログラムを無償提供することはできないだろうか。</p>	<p>国としては、企業への補助としてセキュリティに特化するものではないがIT投資促進減税という制度がある。（経済産業省）県でもIT関連支援策は考えているが、私見としては、ウイルス対策ソフトをビジネスとして行なっている企業があるので、県として全面的に支援することが良いのかどうかという考えもある。ウイルスを駆除するソフトを作る企業を育てるということも大事だと思う。（共催者）</p>

〔電子商取引関係〕

いわゆるECと言われるような、ショッピングサイト系の問題である。ほとんどがCD-ROMの内容からインスピレーションを得た質問だったが、最近はやっている架空請求系のメールも大きな社会問題となるだろう。お金だけではなく、個人情報の予期しない利用など、金銭以外の問題にも広がることがあるので、今後もっと注意していくことが必要かもしれない。

質問	回答
ビデオの中でクレジットカードの詐欺があったが、あの場合の代金は戻ってこないのだろうか？	基本的にクレジットカード会社には保険がある、個人へ請求がくることはない。38万の被害をかぶるのは保険会社である。
インターネットオークションで、モノを送ったのにお金を振り込んでこないというのはわかるのですが、その逆のパターンで、落札してもらったのに、連絡もないし、お金も振り込んでこない。で、次にまた出品して別の人に売ってしまったという場合、法律にふれることはあるのでしょうか？	モノが先か金がか先かで法律上の違いはありません。取引で問題がありそうな場合は、しっかりと先方とのやりとりを記録しておくといった対策をしておいてください。
ビデオでクレジットカードで請求が来たが早めに届けたのでセーフだったが、それは本当にセーフなのか、また、決済された後でもお金は戻ってくるのか？	クレジットカード会社によって対応が違う。ビデオの場合は使っていない証拠が明白だったので、明細を見て支払を拒否したのが通じた。がカード会社によって対応は違うので、中には使っていないことを証明しろと言われる場合もある。
メールでの架空請求の請求書が届いた場合、警察に届ける際にはどういった書類が必要なのか	警察に届ける前にクレジットカード会社との交渉が必要。請求が来ただけでは被害にはならない
警察の話で架空請求で、実際に取りに行く例はほとんどない、という話だったが、ほとんどないけど少しでもあったのかどうかを知りたい	警察では、実際に取り立てに来た、という例は聞いていない。だが、架空請求ではないが、割り増し請求があり、それに関しては実際に取り立てに行ったという話を聞いている。

## 7. まとめと今後の課題

今回のインターネット安全教室は、主に、家庭や学校からインターネットにアクセスする人々や、セキュリティ啓発活動に携わる人々を対象としたセミナーである。個別のセキュリティ技術や政策などのセキュリティセミナーは、首都圏では数多く開催されているが、このような一般の方々を対象にしたセキュリティ知識の底上げを目標としたセミナーは、あまり類をみなかったと言えるだろう。

全体で 2000 名を超える参加者を集めることができたのは、集客に多大なるご尽力をいただいた共催者の方々の力が大きい。平均して 100 名～200 名の方が参加され、沖縄では浦添市民会館にて 700 名が参加する大イベントとなった。

平日の実施が多かったためか比較的高齢者の方の参加が多かったが、会社を定年退職されたばかりと思われる 60 歳代の方が多く、情報や知識に対する積極的な姿勢が見られた。参加者の方々は非常に熱心な様子であり、各地での体験学習や質疑応答に手を挙げる人がいないのではと懸念していたが、結果的には体験学習にも積極的に手を挙げていただけた。

また、高齢者を含めて申込の大半はメールであり、インターネットの普及率を感じさせた。誰もが手軽に使えるインターネットだが、セキュリティの知識をきちんと認識している人は、ネットワーク業務に携わると一部の人であるようで、実際に対策として何をすれば良いのか、自分の PC は本当に安全なのかをわかっている人は意外と少ないと思える。

今回のインターネット安全教室の当初の企画は、インターネットは車と同じように安全だが、車社会と同じように危険（個人情報の漏洩やウイルス感染など）も伴うものである。各学校などで行なわれている交通安全教室と同じように、インターネットの安全教室も定期的に行なう必要があるだろうということで準備された。インターネットを取り巻く環境は日々変わっていくので、このような教室も毎年定期的に繰り返されるべきだろう。

今後の大きな課題として、この継続の問題がある。コンテンツの作成や更新、機材の調達、後援者の選定や依頼など、単なるボランティアでは及ばない部分も多いのが実情である。もちろん今回の各地での実施を担当した JNSA が引き続き継続するとしても、既にボランティアベースでは難しい状態である。

これらを解決する方法として、もっと各地方の独自の活動をベースにし、地元の NPO や公的な機関へのコンテンツなどの提供という形で、足元からの普及啓発を広めることが考えられる。今回もいくつかの開催地や、開催はしなかったものの、後からいろいろ質問や相談されてきたところがあるので、このようなところを中心として、「インターネット安全教室」の手をつなぐ輪を作っていくという方法が現実的ではないかと思われる。

このような活動を政策として取り入れるために、経済産業省には引き続き予算的な処置も含めたイニシアティブを取っていただければと考える。

最後に、今回参加者の方々に配布した CD-ROM を土台に、その方々が家庭であるいは職場でさらなるセキュリティ知識の向上に努めてれば幸いである。また、CD-ROM の内容をセキュリティ啓発のツールとして、さらに多くの方にセキュリティの知識を学んでいただければ幸いである。

今回の実施で全国 11 カ所の共催地との人的ネットワークができたことは大変有意義であった。今後は、それをさらに生かして、より一層の啓発活動につなげられるよう努力したい。